

第 36 回とちぎの和牛を考える会(令和5年 11 月 28 日)

参加者アンケート 集計結果

文責：松村啓子（宇都宮大学共同教育学部）

質問1 回答者様の性別と年齢をお教えてください。

年齢	人数	割合	性別	人数	割合
10代	3	5.3%	男性	30	52.6%
20代	5	8.8%	女性	26	45.6%
30代	10	17.5%	不明	1	1.8%
40代	9	15.8%	合計	57	100.0%
50代	11	19.3%			
60代	8	14.0%			
70代	10	17.5%			
不明	1	1.8%			
合計	57	100.0%			

アンケート調査にご協力いただいた回答者は、10～20代が少ないものの、昨年度のアンケートに比べて、30代以上については特定の年代への偏りはありませんでした。

年齢と性別の組み合わせで多かった回答者は、30代男性（8名、14.0%）、50代男性（8名、14.0%）でした。

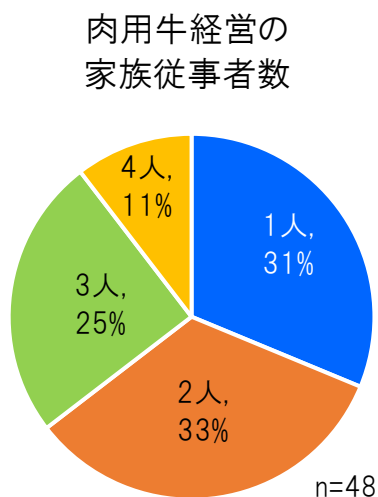
質問2 お宅の肉用牛経営の種類をお教えてください。

肉用牛経営	人数	割合
繁殖	37	64.9%
肥育	1	1.8%
繁殖肥育一貫	5	8.8%
乳肉複合	6	10.5%
授精師・獣医師	2	3.5%
学生・その他	5	8.8%
不明	1	1.8%
合計	57	100.0%

肉用牛経営の種類について、繁殖経営が64.9%を占めています。肥育を行う経営（肥育経営、繁殖肥育一貫経営）が10.5%、乳肉複合経営が10.5%となっています。

肉用牛を飼養していない回答者は、12.3%でした。

質問3 回答者様以外で、肉用牛経営に従事しているご家族をお教えてください。



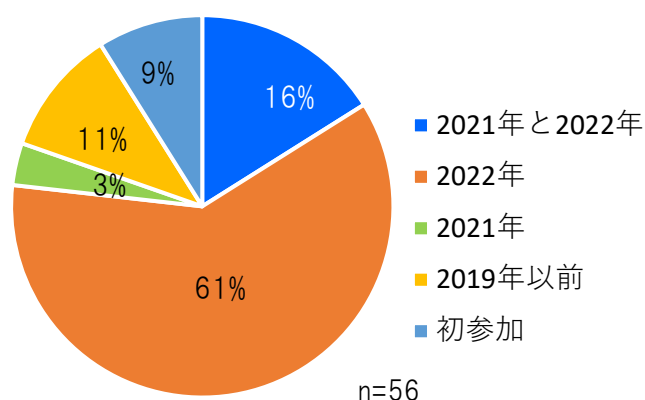
この質問では、無回答が8名（うち7名は肉用牛を飼養せず）、人数不明が1名でした。

肉用牛経営への家族従事者数は左の図のとおりとなっており、2人以下が全体の3分の2近くを占めています。家族の3人以上が従事する肉用牛経営の内訳は、繁殖経営12戸、繁殖肥育一貫経営2戸、乳肉複合経営3戸でした。

なお、回答者世帯の家族従業者の性別は、男性が54名（54.5%）、女性が45名（45.5%）でした。

質問 4 最近参加された「考える会」の講習会を教えてください(複数回答可)。

最近参加された「考える会」の講習会

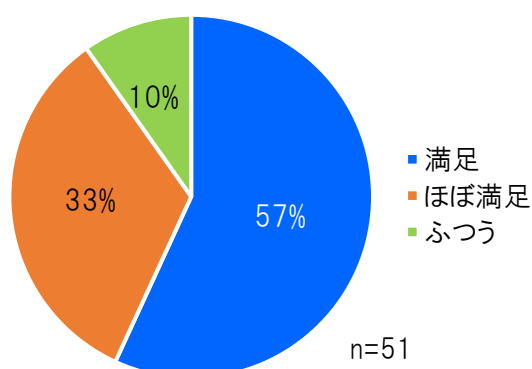


直近3年以内(2021~2023年)の参加経験がある回答者は80.4%を占めます。コロナ禍を経て、2022年度から参加を再開した回答者が多いことが見て取れます。

30歳台以下の回答者(18名)でも参加経験がある方が77.7%を占め、年齢を問わずリピート率が高いと言えます。初参加の方(5名)の内訳は、学生3名、肥育経営1名、繁殖経営1名でした。

質問5 本日の講習会は、満足いただけただけでしょうか?

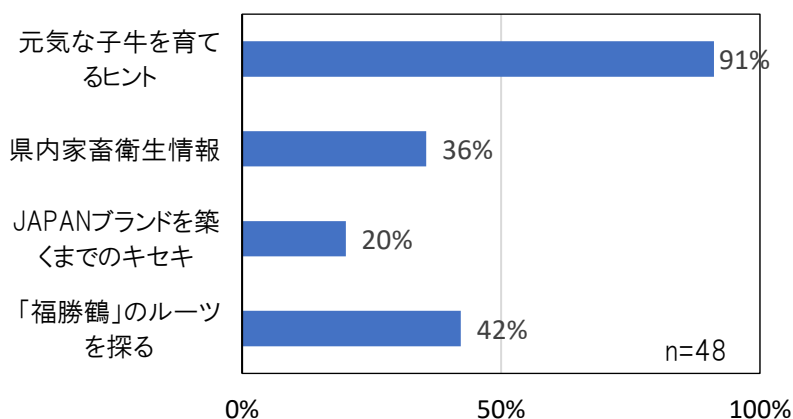
講習会の満足度



「満足」もしくは「ほぼ満足」という肯定的意見が90.2%を占めており、否定的意見はありませんでした。「満足」という回答率は、昨年度の35%から大きく上昇しました。

質問6 本日の講習会で、ご自身の経営に活かそうと感じた内容に○をつけてください(複数回答可)。

経営に活かそうと感じた内容(回答率)



午前中の講演会「元気な子牛を育てるヒント」は、回答者の実に9割が「経営に活かそうだ」と感じています。

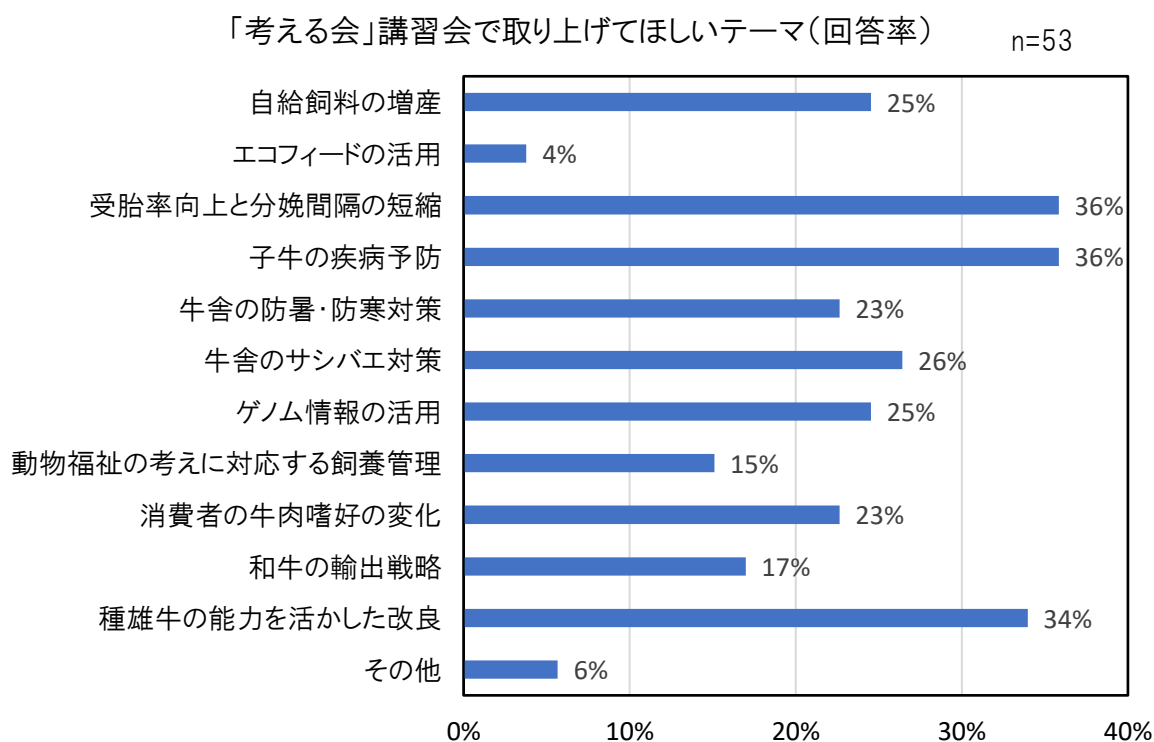
家畜改良事業団前橋種雄牛センターによる「ゲノム一位の福勝鶴のルーツを探る」の講演についても、2023年10月から県内での精液販売が開始された「福勝鶴」への期待の高さがうかがえます。

質問7 「考える会」講習会の開催時期・場所・研修時間について、どうお考えですか？

大多数がいずれも「現状でよい」と回答しました。以下では、個別意見を記します。

- ・開催時期については、1名が2月を挙げました。
- ・開催場所については、2名が宇都宮を挙げました。
- ・研修時間（現状5時間）については、4名が3時間、2名が4時間と、短縮を望む意見でした。時間短縮を望む意見は、昨年度（4名）より多くなっています。

質問8 次回以降の「考える会」講習会で取り上げてほしいテーマに、○をつけてください（複数回答可）。

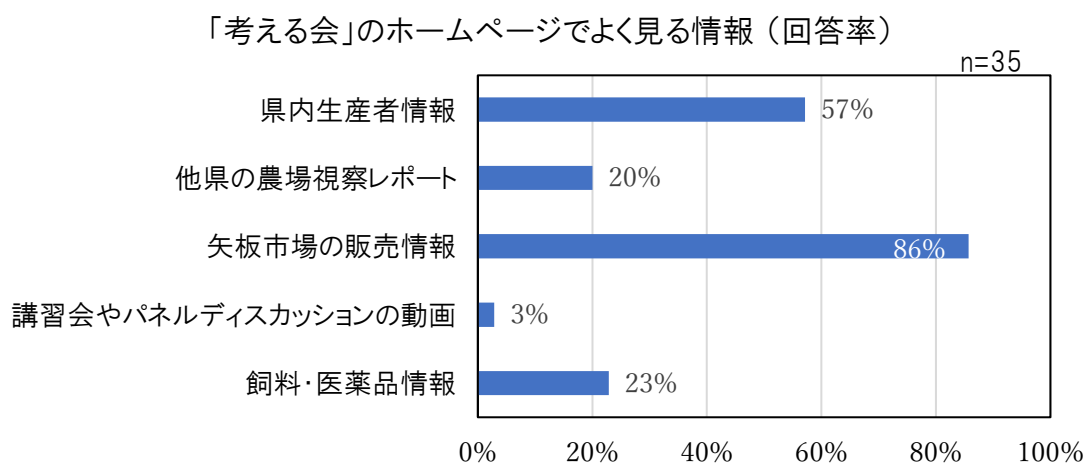


「受胎率向上と分娩間隔の短縮」（昨年度は55%）、「子牛の疾病予防」（昨年度は49%）が最も多く選ばれたテーマであることは、昨年度と同様です。また、今年度の選択肢に加えた「種雄牛の能力を活かした改良」が、僅差で上記2つのテーマに続いています。

飼料価格の高騰が続いているなか、4分の1の回答者が「自給飼料の増産」を選び、牛舎環境に関する2つのテーマ、「ゲノム情報の活用」、「消費者の牛肉嗜好の変化」への関心も高いことがわかります。「牛舎の防暑・防寒対策」「ゲノム情報の活用」「消費者の牛肉嗜好の変化」については、いずれも昨年度の回答率よりも増加しています。

「その他」の具体的な内容としては、「飼料の高騰について」「動物愛護に関するテーマ」「受精卵活用」「矢板市場にお客をいかに集めるか」が挙げられました。

質問9 「考える会」ではホームページで情報発信を行っています。どんな情報をよく見えていますか？（複数回答可）



この質問では無回答が9名とやや多くなっています。無回答を除いた48名のうち、ホームページを見たことがある回答者は35名（73%）でした。35名を分母とする回答率は、「矢板市場の販売情報」（86%）が最も高く、次いで「県内生産者情報」（57%）となっており、「矢板市場の販売情報」をいち早く知る手段として、「考える会」のホームページが活用されています。第35回大会や過去の講習会の動画の視聴者は1名（3%）にとどまりました。

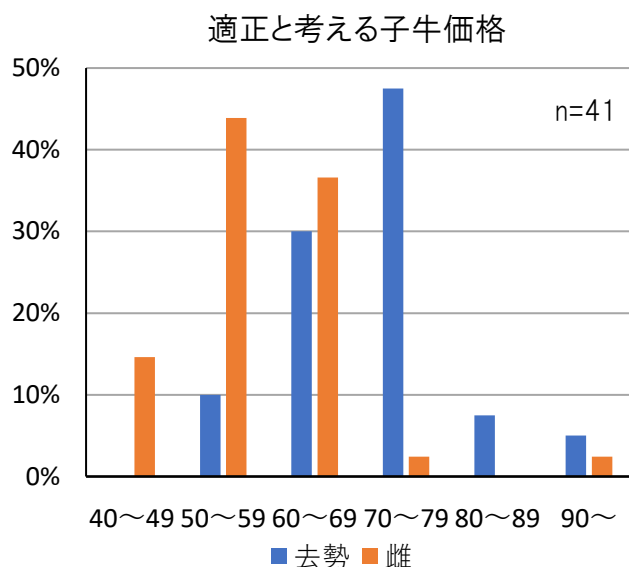
質問 10 飼料や資材が高騰し、子牛価格が低迷している現状に対して、最近1年間で何か取り組んでいることがありましたら、具体的に教えてください。

飼料・資材高騰と子牛価格低迷に対する自家での取り組み 回答数

粗飼料の完全自給または生産拡大 （上記のうち、稲WCSの増産）	9 (2)
自給粗飼料の良質性を維持	1
購入飼料（粗飼料・配合飼料・添加物）・資材 の変更 によるコストカット	6
クラフトパルプの飼料利用	1
哺乳期の疾病の早期発見	1
カウコンフォートの意識	1
子牛の早期出荷	1
受精卵販売	1
がまんする	1

自由記述とした質問 10 は、18 名から回答を得ました。取り組みとして最も多く挙げられたのは、自給粗飼料の増産や完全自給達成（9名）で、回答者の半数に達します。次に多い取り組みは、購入飼料・資材の内容変更によるコストカット（6名）でした。教育機関ではクラフトパルプの飼料利用の取り組みが行われていました。

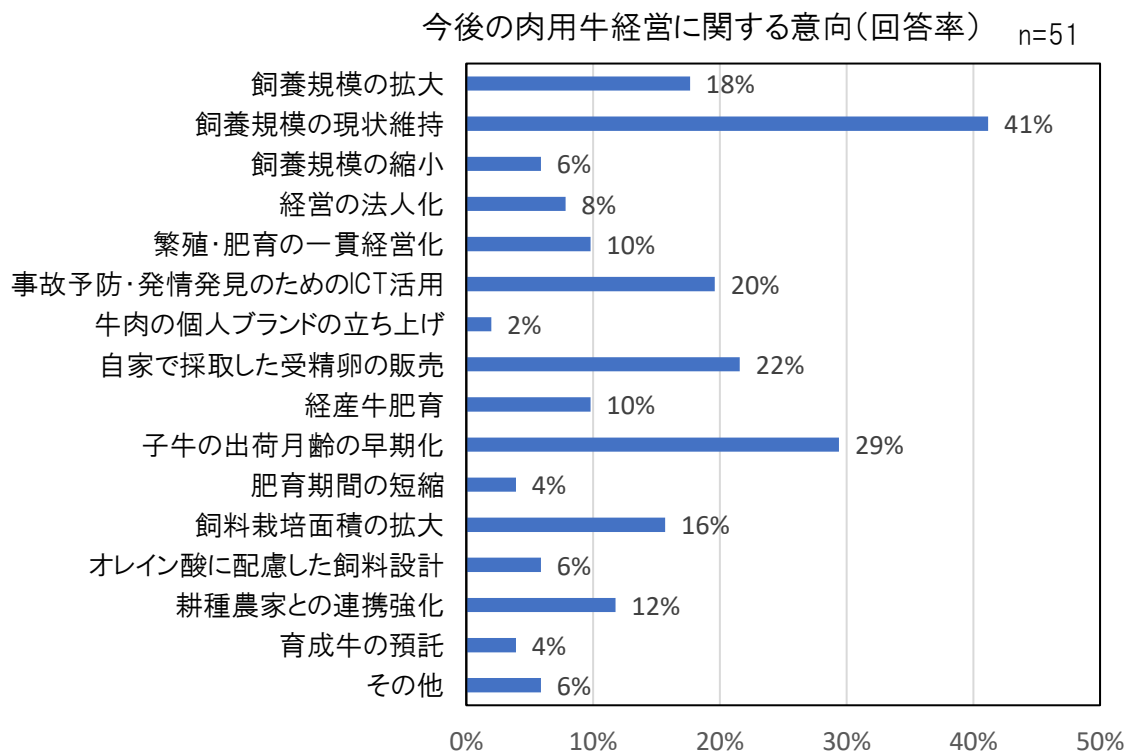
質問 11 現在のお宅の経営にとって、適正であると考える子牛価格はどれくらいですか。



去勢については、70～79 万円を適正価格と考える回答者が最も多く（48%）、これより低い 60～69 万円の回答率（30%）は昨年度（14%）より増加しています。一方、雌では、50～59 万円を適正であると考えた回答者が最も多く（44%）、昨年度は過半数（52%）の回答者が適正と答えた 60～69 万円の価格帯は、回答率 37% にとどまっています。

アンケート調査を実施した 2023 年 11 月時点の矢板家畜市場の子牛平均価格は、雌が 47.6 万円、去勢が 66.8 万円で、適正と考える価格帯と 10 万円程度の開きがありました。

質問 12 今後の肉用牛経営について、どのようなご意向をお持ちですか。現在取り組んでいることも含め、あてはまるものに○をつけてください（複数回答可）。



「飼養規模の現状維持」の回答率が唯一 4 割を越えています。DG（一日平均増体量）を重視し、飼料費の削減にもつながる「子牛の出荷月齢の早期化」が次に多く選ばれていますが、回答率は昨年度の 43%から減少しました。その他 20%以上の回答率を示したのが、「事故予防・発情発見のための ICT 活用」「自家で採取した受精卵の販売」の 2 つであり、一部の経営ではすでに実践されていることが推測されます。

なお、「その他」の具体的な内容としては「国産飼料の利用拡大」「動物愛護的な、物としてではなく命としての生産・飼育ができればよい」「経産牛（受胎中）の預託」が挙げられました。

質問 13 その他、ご意見・ご要望がありましたら、お聞かせください。

以下の意見や要望が寄せられました。

・本日は貴重な講話をありがとうございました。県内の家畜衛生情報の説明をいただき、県内の現状を知ることができ、良い機会となりました。ジャンケン大会とても楽しかったです。もっとやりたいです。

・興味があるワクチンやゲノムの話が聞けてよかったです。来年も参加したいです。一人一人話す時間が平等にできたらいいなと感じました。抽選などのレクリエーションもあって、より楽しみながら学ぶことができとても嬉しいです。今後もちぎ和牛の発展を期待しています。

・松本大策先生の講習希望です（午前 繁殖・子牛、午後肥育とか…）。

・生菌剤を有効的に活用する等、子牛の体調管理の大切さを学ぶ事ができました。大変勉強になりました。

・役員の方々大変ご苦労さまでした。

・お弁当はとちぎ和牛をいっぱい食べたい。

・講演のスライドに資料にない物が多くて、メモをとりづらい。

・毎月の市場を、1 日、2 日に定めてほしい。

・市場日（開催日）の一律化→毎月 1 日、2 日等で固定。

・考える会の HP がすごく重いです。

・栃木県が家畜改良事業団とのコラボを断った理由の公表。

・霜降りにこだわらず赤肉中心でも、おいしい牛肉を作る様にしないと、消費が伸びないと思う（健康によくないと CM される→脳梗塞、心筋梗塞 etc.）。

以上